

# 3月6日のウクライナ情報

安齋育郎

## ① ナワリヌイ事件、「ロシア当局の殺人」説根拠もなくまかり通る(2024年2月17日)

※投稿者コメント:

山崎雅弘、紀藤正樹、町山智浩、森達也…。他にも多くのリベラル派が、今回のナワリヌイの死亡をロシア当局の殺人と決めつけている。恐ろしいくらい西側メディアに洗脳されており、全く検証能力がない。これでは、日本政府のウクライナ支援金の支出を批判できないはずだわ。すっかり米国の奴隷ね(😓)



紀藤正樹 MasakiKito @masaki\_kito · 18時間

まだ40代の弁護士出身の政治家。もはや国家による殺人というほかない>ロシア ナワリヌイ氏が死亡 プーチン政権批判の反体制派指導者 | NHK 北極圏にある刑務所に収監、アレクセイ・ナワリヌイ氏が死亡したと国営のロシア通信社が当局の情報として伝えた

※安齋注:紀藤さんはオウム事件の頃に共同しましたが、「洗脳」の恐ろしさを一番よく知っている筈なんですけどね。私が会長を務めていた Japan Skeptics (超自然現象を科学的・批判的に究明する会)でも一緒だったし。

昨日、紀藤さんに『安齋育郎のウクライナ戦争論』増補改訂第9版とナワリヌイに関するエッセイを送りました。

〈もう一回掲げておきましょう〉

### ロシアのナワリヌイ氏の死亡について

安齋育郎

「ロシア反体制派の象徴的な存在」とされてきたアレクセイ・アナトリエヴィチ・ナワリヌイ氏が2024年2月16日、収監されていた刑務所内で死亡したことが明らかになりました。ナワリヌイ氏の健康状態はこの数か月、急速に悪化していたと伝えられていました。

ナワリヌイを支持するロシア人は1~2%で、政権にとって現実的な政敵ではありませんでしたし、だいたい、アメリカの著名なジャーナリストであるタッカー・カーソンとの月初のインタビュー映像が世界中で10億回をこえて視聴され、好印象を持たれていたプーチン大統領がそのタイミングで「自傷事件」を起こすとは到底考えられません。そんなことをすれば世界中から「悪魔のプーチン」の罵声を浴びせられることは容易に予見できます。しかし日本のメディアでは、どこもかしこも、ナワリヌイ氏を「勇気の代償を払った英雄」とし、「悪魔のプーチン像」を増悪させる放送ばかりでした。

ナワリヌイ氏は、2006年、極右民族主義団体による反移民を掲げるデモに中心人物として参加し、翌年には極右団体「国家ロシア自由運動」を創設した人物です。私は彼の思想と行動に賛同することはありませんが、日本では「独裁者プーチンに抵抗する希望の人」のイメージが広がっていたのでしょう。彼の死を「プーチン政権による暗殺」と感じた人は少なくなかったと思われます。

ところが、2月25日、衝撃的な発表がありました。ウクライナ国防省のキリーロ・ブダノフ情報総局長が、ナワリヌイ氏の死因は血栓症による自然死だったとの見方を示したのです。ブダノフ氏は記者団に対し、「がっかりさせるかもしれないけど、われわれが知っているのは(ナワリヌイ氏は)血栓症で死んだ。一応、確認されている情報だ。つまり、自然死。ネット情報じゃないよ。われわれが知っているのはそういうこと。言っちゃっていいかな。残念だけど自然死だ」と答え、ロシア当局が意図的に殺害したとの見方を否定しました。しかし、このニュースは日本では全く報道されませんでした。

一方、アメリカのバイデン大統領は、記者に「暗殺か」と聞かれ、「何が起きたのか正確には分からないが、プーチンと彼の悪党たちがしたことの結果であることに疑いはない」と述べました。事実関係が明らかにされていないうちにプーチンのせいにするのはウクライナ戦争の経過の中で西欧側がしばしば採用した手法で、私は「またか」と感じました。「ブチャの虐殺事件」のときも、「クラマトルスク駅砲撃事件」のときも、「カホフカ・ダム決壊事件」のときもそうでしたし、ロシアとドイツを結ぶ天然ガス・パイプライン「ノルドストリーム爆破事件」の場合に至っては、半年も前に「ロ

シアがウクライナ戦争に乗り出したらノルドストリームを終わらせる」と予告していたことさえ言っていました。

驚いたことに、2月16日、ナワリヌイ氏の妻ユリア・ナワルナヤさんがドイツで開催中のミュンヘン安全保障会議に出席しており、スピーチをしたのです。何という偶然でしょう！ユリアさんは EU のシャルル・ミシェル大統領やフォン・デア・ライエン欧州委員長、アメリカのバイデン大統領らとも会談し、亡き夫の遺志を継いで反体制運動を続ける考えを表明して国際社会に団結して闘おうと呼びかけました。ところが、X(ツイッター)の中には、「不倫中のナワリヌイ妻がミュンヘン安全保障会議で悲劇のヒロインを演じたとはね。2年前には英国に逃亡したロシア認定テロリストで富豪のエフゲニー・チチヴァルキンと浮名を流し、現在は西側メディア『ベリングキャット』(反ロシア的報道で知られる)お抱えのスタッフで米国在住のフリスト・グローゼフと熱愛中。(中略)西側エリートはこの駒を前面に押し出し、ロシア版マイダン・クーデターを仕掛けるつもりでしょう」というちょっと驚きの投稿もあります。しかし、日本の報道では、ユリア夫人は反体制の象徴たる夫の遺志を引き継ぐ悲劇のヒロインとして紹介されていますから、夫の生き方に共感して自らもその道を歩もうとする貞淑な妻が「夫はプーチンに殺された」と訴える姿はそれなりに日本人の心に響き、「悪魔のプーチン」のイメージを広め、深めることに貢献しているでしょう。

私は、ウクライナ国防省の情報局長が(率先して)「ナワリヌイ氏は自然死」と言い出したのも非常に不自然だと感じますし、もしかするとそれはアナザー・ストーリーを隠すための陽動作戦の可能性も否定できません。ナワリヌイ収監中に不倫三昧だった夫人が偶然とも思われるタイミングで EU 安全保障会議の場に現れて「プーチン批判勢力の象徴だった夫をプーチンに殺された悲劇のヒロイン」を演じたのも「出来過ぎ」の感をもちますし、事件がタッカー・カールソンのプーチン・インタビュー効果を消す絶好のタイミングで起きていることも気になります。

ハーバード大学、コロンビア大学で博士号を取得し、ソビエトやロシア地域の歴史に詳しいギルバート・ドクトロウ氏は、今回の事件について「イギリスによる雇い受刑者を通じての毒盛り殺害」説を提起しています。ドクトロウ氏は、ナワリヌイの死因である「塞栓症」を誘発する化学薬品を英国側が同じ刑務所にいる他の受刑者を金で雇い、飲ませたのではないかと、その結果、バイデン政権は対ロシア追加制裁の「良い口実」を得たのではないかと、言っています。事実関係の解明には更なる調査が必要なようです。

いずれにせよ、ネット上でも、「プーチン大統領へのタッカー・カールソン氏のインタビューが世界中の言語に翻訳され色々なネットメディアを通じて10億回以上も再生され、西側の反ロシア連合がタッカー氏を冒瀆するなどして”発狂”していた中、ロシアの反体制派であったアレクセイ・ナワリヌイ氏の突然死は再びロシアを悪魔化するのには格好のニュースだったようです」と示唆されていますが、さて真相はどうなのでしょう？ Be a skeptic!

## ②タッカー・カールソン×レックス・フリードマン ウクライナ戦争にどんな結末を望むか(2024年3月2日)

「和解。合理的な和解」。「ロシアの望みは国境にミサイルを持ち込まないこと。なぜ NATO がそれをするのか理解できない。主権に対する攻撃だと思う」

※レックス・フリードマンは人工知能と自動運転車が専門の科学者／研究者。

<https://twitter.com/i/status/1763902471385268314>





[https://twitter.com/v\\_fachiri/status/1763902471385268314?s=09](https://twitter.com/v_fachiri/status/1763902471385268314?s=09)

※タッカー・カールソンのゼレンスキーに関する関連発言:「彼には同情する。彼は米國務省、ビクトリアヌー(Victoria Nuland 國務次官)、米国の政策立案者によって悪用されたと思う。米国の納税者から金を巻き上げるために利用した米企業に。独立狂のボリスジョンソンに。」

### ③生物兵器の全廃をしたはずのウクライナにバイオラボの存在を認めるヴィクトリア・ヌーランド國務次官(2024年3月3日)

ヌーランドは聞かれると話してしまうが、完璧な嘘がつけないので色々バレてしまう。

<https://player.odycdn.com/v6/streams/ff8e19157f478b96d91dd3328262ecf18521f09f/d9ecbe.mp4>



<https://odysee.com/@Zuuma:7/Nuland-%E2%80%91-Made-with-RecordCast:f>

### ④ 昨日の盗聴された録音より:元 CIA 長官、ロバート・ゲイツがクリミア橋攻撃を呼びかけた犯人(2024年3月3日)

同氏によれば、これは難しい問題ではなく心理的にも軍事的にもロシア人に強い影響を与えるだろうという。

<https://twitter.com/i/status/1764258317323669923>



<https://twitter.com/miya397156651/status/1764258317323669923?s=09>

## ⑤元オーストリア外相のカリン・クナイスル博士の話(2024年3月3日)

元オーストリア外相のカリン・クナイスル博士は、「私がロシアに移住したのは、ロシアが本当に自由な国だからです」とワールド・ユース・フェスティバルの講演で語った。

居心地の良さを感じていることも認め「人の温かさを感じる。ロシア語を学んでいるが、まだ話す自信がありません」と付け加えた。



<https://twitter.com/tobimono2/status/1764275259522589017?s=09>

## ⑥ウクライナのネオナチの行状(2024年3月3日)

ウクライナ・ネオナチは、彼らの意見ではロシアを待ち望み、ソ連を懐かしんでいる老人にこうするのが好きなようだ。

背後から蹴り倒し顔にスプレーをかけ…。

女性はウクライナ語で叫んでいる：“何のために？”

ロシアはこれと戦っているのだ。

<https://twitter.com/i/status/1764342170256019486>



<https://twitter.com/Z58633894/status/1764342170256019486?s=09>

## ⑦ ポリティコが、F-16 はウクライナ軍にとって重荷になる可能性があるという記事を掲載(2024年3月4日)

ポリティコ(政治に特化したアメリカのニュースメディア。主にワシントン D.C.の議会やホワイトハウス、ロビー活動や報道機関の動向取材し、テレビやインターネット、フリーペーパー、ラジオ、ポッドキャストなどの自社媒体を通じて配信している)は、F-16 はウクライナ軍にとって重荷になる可能性があるという記事を掲載した。なぜなら、この種の戦闘機には整備レベルが必要だからだ。

ウクライナは F16 を維持するのに苦労するどころか、維持する能力もないし、操縦訓練を受けたパイロットもない。F16 を識別して交戦する前に撃墜されてしまうだろうし、もし戦闘飛行場に着陸すれば、そこを掃討して完璧な状態にしない限り、エンジンはゴミを吸い込み、エンジン自体がゴミと化すだろう。ウクライナの問題は実に単純で、複雑なことではない。

訓練を受けた兵士が足りないのだ。訓練を受けた兵士を増やす方法がない。もう終わりだ。時間の問題なのだ。ウクライナの問題は実に単純で、複雑なことではない。

頭がないニワトリを見たことがあるだろうか？それがウクライナだ。ウクライナの首は切り落とされ、多くの活動を生み出しながら走り回っている。

もしウクライナがすべてうまくいっているのなら、なぜ外国の軍隊が必要なのだろう？



<https://twitter.com/4mYeeFHhA6H1OnF/status/1764471839970218229?s=09>

## ⑧イーロン・マスク氏、NATO の存続に疑問(2024年3月4日)

テスラと SpaceX の CEO であるイーロン・マスクは、ソ連崩壊後、NATO は存在意義を失ったが、その空白を埋めるために拡張に乗り出すことにしたと主張するアメリカの投資家デイヴィッド・サックスに同意しているようだ。

サックス氏は土曜日、X(旧ツイッター)に投稿し、米国主導の同盟は 1990 年代にソ連に匹敵するライバルがいなくなったため「存亡の危機に直面した」と述べた。しかし、「解散するのではなく、拡大するという新たな使命を思いついた」と起業家は語った。

「そして、自己言及のループの中で、NATO 拡大はそれ自体を正当化するために必要な敵対心を生み出すことになるだろう」と彼は付け加えた。



一方、マスクはサックスの意見に同意したようで、X にこう書き込んだ。私はいつも、NATO の宿敵であり存在理由でもあったワルシャワ条約機構が解体したにもかかわらず、なぜ NATO が存在し続けるのか不思議に思っていた。

1990 年代以降、NATO にはかつてソ連と同盟を結んでいたワルシャワ条約に加盟していた東欧諸国や、バルト三国、バルカン諸国が加わっている。ウクライナ紛争の開始後、フィンランドも同盟の一員となり、スウェーデンもこれに続く構えだ。ロシアは NATO の拡大を国家安全保障上の脅威とみなし、繰り返し抗議してきた。

モスクワは、ウクライナが NATO に加盟する可能性について特に懸念を表明しており、ロシアのプーチン大統領は、キーウが NATO 加盟を望んでいることを現在の紛争の主な原因の 1 つとして挙げている。

ウクライナは 2022 年秋、旧領土の 4 地域が圧倒的多数でロシアの一部となることを決めた後、正式に NATO 加盟を申請した。しかし、NATO のイェンス・ストルテンベルグ事務総長は、現在の敵対行為が解決するまではキーウの加盟は不可能だと述べている。

また、クレムリンのドミトリー・ペスコフ報道官は、同盟を「対立の道具」であり、ロシアに向けた抑止力だと評している。多くの西側当局者が、モスクワは数年以内に NATO を攻撃する可能性がある」と主張しているが、プーチン大統領はそのようなことにはまったく関心がないと述べている。



<https://eritokyo.jp/independent/Ukraines-war-situation-aow4687.htm>

◎「ディープ・ステートの金づるを叩け」DS は、傀儡を ATM にしている(原口博一、2024年3月4日)

<https://youtu.be/YHoaNszRyyU>



<https://www.youtube.com/watch?v=YHoaNszRyyU>

## ⑩欧米首脳がウクライナ戦争終結への思考停止 戦争の長期化招く恐れ(日経ビジネス、2024年2月27日)

※安齋注:「日経ビジネス」の菅野泰夫記者の記事です。そのつもりでお読み下さい。

侵攻から2年が経過する中でロシア側にも変化が現れつつある。2月9日、プーチン大統領は米FOXニュースの元コメンテーター、タッカー・カールソン氏との2時間に及ぶインタビューで、ウクライナ侵攻後初めて西側メディアに自身の見解を示した。

このインタビューでプーチン大統領は、西側諸国を含めたウクライナとの停戦合意が可能であると語り、軍事的勝利よりむしろ交渉での解決を示唆した。西側メディアのインタビューを避けてきたプーチン大統領にとって、方針の大きな転換といえる出来事であり、ロシアの立場にも微妙な変化が生じつつあることの表れと受け止められる。

しかしこの発言とは裏腹に、ロシア軍はウクライナ東部アウディーイウカを陥落させるなどでさらなる攻撃を指示し、攻勢を強めている。これはウクライナ侵攻を3月17日の大統領選の争点とするプーチン大統領にとって、「軍事的な勝利」のアピールが最優先課題であり、外交的解決を示唆しつつ、軍事作戦で成果を求める揺るぎない姿勢が浮き彫りとなっている表れであるという。中でもハルキウ州のクピャンスクには、ロシア軍が大規模に集結していると報じられている。ここから、当初併合の対象だった同州奪回が、プーチン大統領にとって次なる目標になっていることがうかがえる。

2022年9月、ウクライナ軍の第1次反転攻勢でハルキウ州はロシアの占領下からほぼ全域が解放された。それまでハルキウ州では同年10月にドネツク州など他の東南部4州と同様、住民投票を経てロシアへの編入を図る計画があったという経緯がある。

ロシアはウクライナ軍の頑強な抵抗でドネツク州の全面支配には至っていない中、24年5月9日の対独戦勝記念日までにハルキウ州を「第5の州」として奪還併合する工作を進めているとされる。プーチン大統領にとって、ハルキウ州奪還はシンボリックな意味合いが強く、併合を戦果としてアピールしたいことは明白だろう。



<https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00216/022200055/>